
ある晴れた日に

そのめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある晴れた日に

【Nコード】

N9440E

【作者名】

そのめ

【あらすじ】

ちよっぴり鬼畜な針良とメンヘラ風味な刃の他愛もない日常風景のお話。

（前書き）

基本扱いがB Lです。

けれど絡みはほとんどないです。

性別がたまたま男同士だったただけだと思ってください。

「おーい！刃あー！こつち来いよ！」

朝から騒々しく、近所迷惑も顧みない玄関からの大声。

まあ近所迷惑も何もない、ここは知り合いだけがすむアパートなわけ。

しかも近所には一軒も家が立ち並んでいない。

けれど今僕の機嫌はそんなに良くない。

何故ならつい先程、同居人に深刻な顔で

「外いつて来い」

というどうでもいい宣告を受けてきたばかりだからだ。

同居人とは、このアパート「ふではこ」の管理人的な感じの定のこ
とである。

心配症でお節焼きで、でも他人としてみる気なんてない。

最早、僕のお母さんだ。

ただ僕の生き方についていろいろ言われると殺人願望が湧いてしま
う。

…空はこんなにも憎い程、真っ青だというのにすべてが煩わしい。
だから、僕は今日には出ない。

「針良が来れば良いじゃない。僕動きたくない」

「おお、ごもつとも」

そう云うと、大声の主…針良は玄関の戸を盛大にあげ、部屋に入っ
てきた。

「おい、そういえば刃、お前一人称直すっていつてなかったっけ？」
そんなこといった記憶なんてないよ。

「一回で良い、”あたし”って言うてくれ。あとデートいこうぜ！」
無茶言うな。外になんぞ出たくない。

「僕を、どうしても女にしたいのかバカ」
ほらでた、覚醒のしゅんかん。

いつもそうだよ針良、君の言動が全部原因なんだ。知らなかったで
しょ…？

部屋の隅っこの机にこっさり右手をのばし、引き出しを開ける。

そこには変わることのない、銀色の輝きを放つ狂気、凶器。

銀刃の出たそれを掴もうと右手に力を入れる。

すると上から自分のものではない力がかかる。

…針良の腕。

「何、してんだよ…！」

「何って…ちよつとぐらい良いかなって」

「次にそういうことしたら許さないって、確かに俺言ったよね？」

言ったから何って言うの、目の前じゃなければいいの？

君が原因、君の言葉を真に受ける僕も原因。

嗚呼、空が憎い。一人で勝手に輝いてるんじゃない。

目線を逸らし、窓の向こうの憎き青空を見上げる。

ふと、感じる体温。

晴れているから、では無さそうだ。

「…針…良？」

抱きしめられていた。

身動きも出来ないまま、針良の薄らと見える横顔を瞳にうつす。

「また、俺の所為でお前を傷つけた。俺が悪かった。

だから…もう傷つかないでくれ。傍にいるから…！」

あたりまえじゃない、もう僕は針良なしでは生きられないんだから。

ぎゅ、つと針良の大きな体をだきしめ返す。
気を緩めた針良の、胸に赤い染み。
…ちがう、ちよつと場所が違った。

ここは脇腹だ。間違えた。

「え…刃…？」

ちよつと不敵に笑ってみた。

「いつ、僕がアレを手放したとおもつたの…？」
僕はずつと握りしめていた。

右手に掴んだ銀色の狂気を放つ、カッターを。

「…笑えねえよ」

「…笑ってほしいなんて思ってたない」

「だって、愛してるんだもん」

「君は、僕のもの」

僕たちは無機物、痛みなんて感じない。
なのに、なんでこんなに煩わしい世界なんだろう。

「あ、ひとつということがあって」

「ん？何針良」

「君は僕のもの、って宣言されましたけども」

「うん…した」

「お前は俺のものだから」

「…うん」

煩わしくても…良いかな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9440e/>

ある晴れた日に

2011年1月20日05時30分発行